

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝



現場で役立つ「Q&A」

Q1：色の名前が一致しない4歳児への効果的な指導について知りたい。

A1：4歳になると10色くらい言えるようになる。指導方法としては、

- ①三原色を具体物（りんごの赤、空の青、バナナの黄色）や絵本（『ぼくのいろなあに』『いろいろばあ』等）を通してインプットしていく。
- ②「雪は白だね」「にんじんはオレンジ色だね」などと、身近な物と関連付けたり、製作活動を通して、色のレパートリーを増やしていく。
- ③その他に、子どもの興味ある物（車、食べ物、アニメ）と関連付ける、子どもに教えるから、教えてもらうようにシフトする、絵の具を使って混色を体験して微妙な色加減を指導する。

子どもに苦手意識を与えないように、子どもの必要感から、知りたい、描きたいという意欲を高めながら、生活の流れの中で、遊びの中で自然と学べる環境を用意します。

Q2：子育てに不安を感じている保護者への対応について知りたい。

A2：多様な情報が簡単に入手できる反面、気軽に相談できる人がいないため、多くの保護者が子育てに不安を抱き、孤育て状況に陥り、自信をもてなくなっている。

園や学校ができることは、保護者の不安を少しでも小さくするために、話をゆっくり聞くことである。子どもの育児に関して希望よりも、毎日の送迎や連絡帳、電話で「おはようございます。今日は寒いですね」、「明日は面談がありますので気を付けていらしてください」と、ホッとくつろげるような一言を掛け続ける。このような一言を積み重ねることで、保護者の気持ちが癒やされ、自分は受け入れられていることを実感できるようになり、子どもをゆっくり受け入れられるようになる。あるいは子どもの気持ちを汲み取ることができるようになる。

ほんの一言でいいので、優しい言葉、明るい言葉、肯定的な言葉、気持ちのよい挨拶を掛けます。保護者が気持ちにゆとりをもって、子どもと接することができれば、それだけで子どもの気持ちも楽になります。保護者が希望するのであれば、関係機関につなげることも不安解消の手立てとなります。



とれたて直送便



「叱り方のポイント」

Q1：なぜ叱るの？

A1：今している言動を止めさせるため。それを今後繰り返さないため。

Q2：叱る必要のあるときは？

A2：生命に関わるような危険な行動をしたとき、約束やルールを破ったとき、人に迷惑をかける行動をしたとき。

Q3：ポイントは？

A3：①その場で、その時、短い言葉で叱る（時間を空けると効果がない）。

②具体的な行動を叱る（人格を否定しない）。

③理由が伝わるように説明して叱る。

④叱った後、子どもが適切な行動をとったら、すぐに認める、褒める（叱ったままで終わらない、必ず成功体験で終わる）。



子どもの行動を整理して、同じ対応を心掛けます。子どもは身近にいる人をお手本にするので、先生方が「生きたルールブック」（基準）となります。